



風が弱くそれを反映した池面は鏡のように静かで、日が照ると蒸し暑く感じました。夏鳥のツバメの姿は消え、ツクツクボウシの声には衰えが感じられます。一ツ箇所であブラゼミの声が聞こえましたがアオマツムシなどが少なくなった蟬の声の隙間を埋めています。



**ハギの仲間**

7 月ころからパラパラ咲いていましたが、そろそろ本番です。黄色い蝶（キタキチョウ）が産卵にやってきます。



**ナガゴガネグモ**

コバネイナゴが網に飛び込んできた瞬間、後ろ脚を使って糸を引っ張りながら巻いています。



**ニッポンヒゲナガハナバチ**

体長 13 ミリくらいですが同じくらいの長さの触角です。幼虫は地中で過ごします。成虫の発生は、普通は春のはずです。



**シロハツモドキ**

東郷町のグランドの西側、シイの並木と側溝の間などで枯れ葉を押し分けて成長しています。菌根菌としてシイの根とつながり、互いに有用な栄養をやりとりしています。



**ヤグラタケ**

白い茸がヤグラタケです。その下の大きな黒い茸はクロハツの仲間、茸上に発生する茸です。数日すると左下のよ



うに傘の上には壁の厚い胞子が作られます。



**コシロシタバ**

写真を撮った後、そっと触って飛んでもらいました。名前のようにまえばねの下の羽に白い斑点が見えました。



ウスバキトンボ止まる

何百キロにも旅をし草原の上を飛び交っているのをよく見ます。夕方になると葉に止まって休みますが、日中に止まる姿を見ることは少ないトンボです。



アキノノゲシ

夏まえから目立ち始めこどもの背丈を超えるくらいまで成長する植物です。花はタンポポと違って舌状花だけでできています。



オニヤンマ

池端で、人に会って驚いたのか近くの木の枝、3m くらいの場所にぶら下がるように止まりました。日本最大種です。成虫になるまで5年を要します。



クビキリギス幼虫



キマダラセセリ

林の縁や草原で、明るい色のキマダラセセリはよく目立ちます。敏捷に飛び、4枚の翅を閉じて止まることもあるかと思えば上のように前翅を立てて止まることもあります。



オオエグリシャチホコ幼虫

黒色に挟まれた黄色と白の筋模様が目立ちます。尾脚（左端）には橙色の斑点があります。ニセアカシアが食草でその枝でトビイロスズメの幼虫



と共に見つかりました



マダラバッタ

**植物** メリケンムグラ、ハルシャギク、ヤハズソウ、ヒメジョオン、オオバコ、ヒヨドリバナ、ツユクサ、ヌマトラノオ大部分実、メドハギ、アキノノゲシ、ヒメオトギリ、オミナエシ、イノコズチ、ヨウシュヤマゴボウ、カラスビシャク、オオブタクサ、カゼクサ、タチスズメノヒエ、センニンソウ、マメアサガオ、ツルマメ、ヒルガオ、イノコズチ、ダンドボロギク、イシミカワ実、カラスウリ実、オニドコロ実、ヤマノイモむかご・実、ミツバアケビ実、アオツヅラフジ花と実、ハギ、モミジアオイ、アメリカノウゼンカズラ、クズ、サルスベリ、実(タカサゴユリ、ヤマノイモ、オニドコロ、イソノキ熟す、サワフタギ、ヤマガキ、イスノキ、アカメガシワ、オニグルミ、ミツバアケビ、クリ多数)、 **昆虫** キタキチョウ、ヤマトシジミ、ヒメウラナミジャノメ、ナミアゲハ卵と幼虫、キマダラセセリ、コシロシタバ、ウスジロエダシャク、ガ幼虫(トビイロスズメ、オオエグリシャチホコ)、バッタ類(キリギリス声、ショウリョウバッタ、トノサマバッタ、マダラバッタ、コバネイナゴ、ツチイナゴ幼虫、ホシササキリ、クビキリギス幼虫)、虫の声(ハラオカメコオロギ、ササキリの仲間、アオマツムシ)、コシアキトンボ、オニヤンマ、マユタテアカネ、コアオハナムグリ、ハイイロチョッキリ産卵痕、クロウリハムシ、蟬の声(ツクツクボウシ、一カ所でアブラゼミ)、ホソヘリカメムシ、アミガサハゴロモ外来種の幼虫、ニッポンヒゲナガハナバチ、ムナキクマバチ、オオスズメバチ、クロオオアリ、ヒメアリ、ツマグロキンバエ、オオハナアブ、アリ地獄、 **蜘蛛** ジョロウグモ雌雄、ナガコガネグモ、チュウガタシロカネグモ、ゴミグモ幼体、コゲチャオニグモ、 **鳥、その他** スズメ、ホオジロ、メジロ、キジバト、カワウ、カルガモ、チュウサギ、イセノナミマイマイ、ミスジマイマイ、カナヘビ幼体、虫瘤(カラスウリクキフクレフシ)、茸(ベニタケ類、シロハツモドキ、ヤグラタケ・クロハツ、チギレハツタケ、ササクレシロオニタケ、カレバキツネタケ、ベニウスタケ、キクバナイグチ、コフキサルノコシカケ、モグラ塚、カメ産卵穴が荒らされた後

次回10月12日(木) 午前9時30分 水資源機構・P前 雨天中止 参加費100円